

# 昭和二十九年年度修士論文要約

## 工業立地の諸問題

工業立地理論の系譜上、A・ウエーバーの所論の占める位置は大きい。後の研究者がW理論に種種の批判を加えたにしろ、いづれもその欠陥を補充修正し、その理論的水準を引上げることに従事したにすぎず、W理論に革命的変革を加えたものはないというのが真実である。理論上資本主義機構を前提とする結果となつたW理論に対し、真向から対決したのが社会主義経済下の生産力配置理論で、資本主義下とは根本的に異つて、工業を版図内に均等に配置するための可能性を追究する。之を実現する要因として、(1)非合理的超遠距離輸送の清算 (2)原料加工の一段階より他段階へ移行する際の労働の喪失を最小限に止めること所謂コンビナート化 (3)動力源としての電力の総合的活用の三点が挙げられ、以上の原則の具象化が、前にはソ連のウツカ建設があり、新しくは大戦後の東欧諸国の工業立地変動にみられるところである。

(杉野秀一)

## インフレーション理論の研究

一國の経済は其の國の財政政策亦金融政策に依つて左右さ

れるのである。両政策は財政が金融を補ふものとして亦逆に金融が財政を補ふものとして、財政々策と金融政策が極めて密接な関係をもつといつて過言ではない。インフレーションが戦時戦後を通じて我が國民經濟に生死を扼する重大問題であつたことは、記憶の新しいところであらう。インフレーションは貨幣經濟の疫病であつて進展すれば、社会の機能を停止せしめる事態をも惹起するのである。インフレーションが何であるかを理解し、如何にして発生し發展するか正確に把握しなければならぬ。インフレーション理論の研究こそ貨幣理論に課せられた最大の任務である。先ずインフレーションの定義を考へる時全くインフレーション論のインフレーションである。種々様々な定義を述べて第一章に於て諸定義の考察を為し所詮定義も二大別に區別され得る。要するに經濟学とマルクス經濟学が相對立する如くインフレーション理論にも相對立して定義が下され得るのである。第二章において近代經濟学に基づくインフレーションを述べ第三章においてマルクス經濟学に基づくインフレーション理論を述べた訳である。第四章においてインフレーションの歴史に就て考察を進め第五章においてインフレーションの種類を説明して第六章がインフレーション理論の結論となる訳である。(宮氏哲雄)

## 外国貿易の所得創出に

## 及ぼす影響について

## —貿易乗数理論の研究—

元來乗数理論は、カーンによつて數式化された雇傭乗数が初めて經濟理論に導入せられケインズにおいて投資乗数として積極的に展開して以來学界の一つの中心問題となつた。更にこれがクラーク、ハロッド及びハーバラー等により開放体制下における所得形成の貿易乗数理論として拡張應用されるとともに、近年では次第にその數式の展開が精密化せられるに及び必然的に國際貿易理論へも更に亦重要な革新をもたらした。

かかる外國貿易をも含む國民所得形成上における乗数理論の諸展開を究明することによつて、國民經濟活動と外國貿易との相互關係を理論的裏付けをもつて明確に把握し、それをもつ問題点と限界性をここに明らかにしようとする拙論を試みたのである。（石川幸夫）

## 財政政策が景氣變動に

## 及ぼす影響について

財政が今日ほど國民經濟の中核となつてゐる時はない、元々財政は國の經濟の謂であり國家形態の發展に伴つて迂余曲折を経て發展し育成し来たつたものである。初期資本主義の

時代の財政は自由主義思想を基盤としていたから國民經濟に与える影響は非常に小さなものであつた。所が資本主義經濟が成熟期に入ると共に個人的な自由な經濟活動は社会的な福祉を増進さすものではないと言ふ矛盾と不均衡が生じて来た、此処に於て國家の強力な經濟政策の必要に迫られ財政投融资が國民經濟の動態に大きな影響をあたえるようになった。

特に一九三〇年代の大不況はこの考へ方に大きな理論的な裏付けをなした。すなわち資本主義の高度化はカルテル、トラスト等の独占化に發展すると所得分配の平等化となり、これ迄循環してゐた景氣回復へのアツプスイツチの要因を消滅してしまつた、したがつてこれが回復の政策として財政政策を利用することによつて得られる効果を一九三〇年代に經驗した。これらの經驗とその政策の理論的根柢を提供したケインズの經濟学を分析展開することによつて景氣循環が生み出す失業と長期慢性化した不況の回復に効果的な政策の方途を見出すとするものである。このためにケインズは独自の分析の用具、すなわち消費性向、貯蓄性向とか有効需要、投資乗数、流動性選好等の用語を縦横に駆使して財政政策、特に公共投資が景氣回復にいかにか効果的な作用をあたえるかを論証した。（野々田三郎）

## 經濟学の歴史化と政策化

左右田博士が歴史科学として經濟学を理論附けられた事は、それまで心理學派の超歴史的な理論を受け入れ、亦徒らに基

確概念の解釈に精力を費消して居た我が経済学に対して劃期的な意義を有する。此の提言こそ実に、歴史的現実態の本質に対する開眼と、それを超克せんとする積極的な意志に伴なはれた研究方法上の深刻な反省を惹起した。併しながら左右田博士が其の理論を伝承したドイツ西南学派が、ヘーゲルの弁証法、フイヒテの知識学に表現された人間歴史の法則性の把束に対抗して起つたものである為に、其の意団に反して素材たる文化の動きと、其れに無關心な「歴史的」研究方法の二元論に終始した。杉村博士はメンガーの経済性原理亦た其の感性的表現型式たる限界效用均等法則に啓示を得て、人間歴史の無限過程性、動的性格を自覚し、経済学に初めて実践的性格を賦与することに成功した。此の杉村学説が一般哲学上、マールブルグ学派に基礎を置き、亦たマールブルグ学派がフイヒテの知識学の内容と相似する点多きを知る時、左右田、杉村両学説の関係を意義深く感ずる。併し此の学説が実践的性格を得たる代償として、其の眞の歴史的具体性を文化現実態の觀察に於ても、実践主体の把握の側面に於ても喪失して居ることを想ふのは私一人であらうか、現象学と關聯深きゴットル政治学派においても此の事情は同じである、現実態分析の歴史化に依つて実践主体の具体的把握にも成功する眞の實踐的理論を樹立するのは以後の課題であらう。

(名田昭)

## 伏見酒造労働の一考察

酒造りは陶器、織物などの伝統的な産業がマス・プロ化した近代産業と並んで生きていることが、わが国の社会の基礎を特色づけている。俗に百日かせぎといわれる酒造りの特殊性は、それが季節的な生産ということ、醸造元の各蔵に入り込む杜氏を頭とする十数名づつの集団はそれぞれ仕事を分担して、ありし日の軍隊にも似た厳格な統制下で激しい労働をせねばならず、そうした人的結合がなければこの生産が出来ないという二点にある。

伏見酒造労働者は主として、福井県、糠、兵庫県(丹波)より来る故、その地の実地調査をなし両者共、避村にして、冬期閑暇ありその餘剩労力の捌け口が得難いので非人間的な出稼をなしているのである。

この出稼労働という特殊事情より傭主と杜氏と他の蔵人との間に隷屬關係が生まれて来る。杜氏の世襲、階級性、その役の名称、蔵人養成法に見られるところである。それ故、酒造労働省に於て封建的な色彩が濃厚であるが、その内に(内面的に自我の目覚め、外面的に社会法規、教育の普及によつて)近代性が芽生えつゝある。

(荒木敬造)

### 第三回 計理実務講座開始

経済学部で将来公認会計士税理士その他税務及会計事務に関する職業に従事しようとするもののために、特に計理実務に関する科外講座を毎年秋期開設してきているのであるが、本年も左記の要領で行う。

本学経済学部の卒業生は、会計実務又は税務に関する職業に就くものが非常に多い。従つて経済学部においては経済及経営に関する専門科目の理論に精通させることは勿論であるが職能教育として別の方法により計理実務の教育を行わんとするものである。

#### 講義要領

講義期間は昭和廿九年九月二十二日より昭和三十年二月九日迄とする。

この間週二回（水・土）二時間宛の講義とする。時間は午後五時三十分より七時三十分迄とする。

#### 計理実務講座科目

科目	担当者	時間	数	計
簿記（商）	高尾講師	一	二	七十二時間
会計原則	津ノ国教授	一	二	
原価計算	寺島講師	一	二	
経済学	山田助教授	一	二	
経営学	木村・祭原教授	一	二	
法人税法	竹内講師	一	二	

- 一、定員 百名 但し定員超過の時は申込順とする。
- 一、申込資格 本学学生（経済学部以外でも可）及び卒業生
- 一、受講申込締切 昭和二十九年九月二十一日
- 一、受講料 金 五百円也